

## 2024年度事業活動報告 および 2025年度事業活動計画（案）

### ① 岳陵のつどい

#### 【2024年度報告】

11月にキャンパスフェスタにおいて『岳陵のつどい』を開催した。これは昨年度までの『岳陵会ラウンジ』のみの企画を拡大、大学の狙いである社会や地域に開かれた魅力化に貢献すること、同窓会員のみではなく地域社会における繋がりを創る場として佐々木委員と木下の2名が中心となって進めた。学生団体への支援活動と、地域への魅力発信、同窓生への参加を促すために、吹奏楽団、混声合唱団、管弦楽団、ダンス部の協力のもと、コラボレーションステージを行った。テーマとして学生歌『われら若人』を課題曲として学生にも親しみをもってもらえる企画とした。卒業生が登壇する企画を行い、現役学生からも質問が出るなど好評だった。全体として200名程度の方が参加された。あわせて、静大創立75周年を記念したステッカー、ポストカードを来場者に配布。

#### 【2025年度計画】

24年度の取り組み、企画については、大学当局や学部からの関心や評価も高く、25年度も継続実施と大学・学部との連携も期待いただいている。すでに昨年度参加した学生団体には今年度の協力出演を承諾いただいているが、さらに連携講座の1コマ（ゲストスピーカーによる講演など）を大講義室において公開で行い、地元の高校生に案内し、静大入学志望を持つきっかけの場とする計画である。

### ② ホームページ改訂ならびにSNS

#### 【2024年度報告】

ホームページについて要件定義までを行い、業者数社から見積をとって、事務局事務員とのヒヤリングまでは行った。しかし、現在のホームページからのデータ移管、削除といった詳細の詰め、デザイン、他のSNSツールの整理というところまで、担当委員の本業多忙もあってリリースまで進めることができなかった。

#### 【2025年度計画】

25年度中にリリースを行うものとした。あわせて、メールアドレスや名簿情報の取得が難しくなっていることから、公式LINEなどを開設し、情報発信することも検討する。あわせて、事務局のDXスキルを上げる。

### ③ 連携講座

#### 【2024 年度報告】

大学担当教員および学部長との対話が不調となり、関係性も悪化したものと判断、拡大役員会含めて状況を共有した。岳陵会として24年度は講師派遣や連携協力を行わないこととなった。大学としては過年度とは違う内容であることを周知、大学の責任下で開講された。

上記の事象を踏まえて大学学部と協議を重ね、関係性の回復に向かう姿勢をみつつ、いままでの十数年にわたった講座名、内容もリニューアルすることで合意。企画と推進体制も明確にした打ち合わせを複数回行った。

#### 【2025 年度計画】

2025 年度から『多様化社会の理解と自律的キャリア形成』（Social Diversity and Independent Career Planning）として、テーマを「自ら考えて動くキャリア形成・国際社会、多様性・多文化理解」を掲げ、学生が自らの人生を真摯に考え、他者や社会に貢献する生き方を模索し、多様な考え方に触れながら職業選択の幅を広げることを期待する講座となる。詳細は現在打合せを進めている。

★講師は人数をいままでの半数程度とし、本部から直接講師候補を発掘、承諾から登壇まで担う。今後はさらに学生にとって有意義な内容となるよう、講義の目標などは講師候補者に説明、ご理解いただいた方をお願いする。また、同窓会活動への参加、イベント協力なども取り付ける。

### ④ 大学・学生団体連携

#### 【2024 年度報告】

大学の魅力を高める提案を大学本部に行った。式典における学生歌『われら若人』の演奏、式典における工夫など、学長および副学長に提案、大変有意義な提案だとなる。しかし2024 年度卒業式ならびに2025 年度入学式は、大学の式典に関する業務入札が終了していたため、内容を盛り込むことが厳しいことがわかった。ただし、学生歌を卒業式の開催前に演奏を流されるなど新しい取り組みが行われた。

また、学生団体において協力いただいている吹奏楽団、管弦楽団、混声合唱団の定期演奏会には卒業生を含む参加がある。ここに着目して広報も含めてスタンド花、祝電を出し、それを会場内では祝電披露として同窓会の名前が紹介され、SNS でも団体側で発信してもらえるなど、卒業生の有志団体としての認知度も高め、学生団体からも岳陵会は応援してくれている感謝の声も SNS 掲載含めていただいた。

#### 【2025 年度計画】

岳陵会は文系総合学部である。その智慧をもってすれば、心に残る静岡大学の魅力になる

## 第1号議案（2）及び第4号議案（1）

式典を支援し、学生や保護者、教職員が感動するものを届けられる。今の静大にはこのような支援が有用であるということから、今後、岳陵会が現役学生団体と大学当局のハブとして、入学と卒業という節目における魅力や、母校となる気持ちを育むことを支援したい。具体的には、学生歌の演奏、歌唱などを式典内で行うこと。学生を主体とした式典改善提案などを計画している。

### ⑤ 岳改訂、広報強化

#### 【2024年度報告】

岳67号から現在の版型をA4縦に拡大、見やすい誌面と読者層を会員数、年次からも想定した層にターゲットをあてた内容にリニューアルする方向で進んでいる。岳は会員の親睦を促すものであるし、広報の役割も果たしている。ここを充実することで、岳陵会がどう活動し、なんのための親睦団体なのかということを出し出していく。また、岳への掲載とWEBでの卒業生インタビュー、また連携講座やイベントにおける講師の承諾なども含めて、同窓会へ協力いただける方の取り付けが進んだ。

さらに、いままでの書籍紹介といったものは、WEB掲載を主体にするなどといった複合的な広報整理を行った。

#### 【2025年度計画】

広報として、多様性のある学部、学科、進路キャリアということ、魅力としてもらえるように学部のニーズをヒヤリング、提案としてオープンキャンパスに卒業生インタビューなどのコンテンツを提供、さらに岳陵会の活動も紹介することで、入学後に会員として手続きしてもらえるようなことを実現する。

また、学部との連携で、8月度のオープンキャンパスでは岳陵会から上記のコンテンツなどを提供、あわせて同窓会の支援を紹介することで、入学前から同窓会参加を納得できるような広報的活動も行う。

また、本部と支部が運営・発信する内容のかぶりが指摘されていること、提案もいただいていることから、アカウントをもって運営されている東京支部と意見交換を行い、岳陵会として広報発信・運営体制を整理する。

### 本部総会と同窓会活動活性化のために

#### 【2024年度報告】

組織見直しに関する議論は、委員会議、拡大役員会でも行った。同窓会参加者や委員の担い手が危惧されるこれからの考える必要性は見えたとはいえ、具体的な内容やスケジュールといった議論までは進まなかった。

その中で、本部総会は長年静岡で開催昨今は案内状を静岡支部と合同で出していること、参加する世代や人数もある程度限られてしまうのも現状であり課題である。

## 第1号議案（2）及び第4号議案（1）

### 【2025年度計画】

本部と支部の在り方の検討などもある中で、本部総会を東京、名古屋、浜松のように支部のある場所で開催するとともに、学生団体の協力を得るような内容を、静岡以外の地域で行うことができれば、それをもとにした集まりができるかもしれない。本部が支部と協力した開催を行うことにしたい。総会の時期が現状6月で重なる東京支部と協議を行うことなど計画する。

### 入会減少にともなう本部からの支部への支援金割合の見直し

#### 【2024年度報告】

支部に毎年支給されることになっている支援金の見直しを検討。現状では入会する学生が減少しているだけでなく、卒業後に入会することも期待できない。

そのため、それを鑑みた支援金の見直しを行い、必要な会則の改訂なども検討することを拡大役員会では決議した。

#### 【2025年度計画】

今後、支部活動や予算の状況などを踏まえて、活動支援金（現在新入生会員あたり20%）を見直すことも含め、持続可能性がある同窓会の財務などを検討する。あわせて、入会を増やす、卒業生の同窓会寄付金を募ることなども検討したい。

### 学部奨学金に対する学部連携協力

#### 【2025年度計画】

現在の学部独自奨学金の基金は、人文学部卒業生の匿名寄付金による。さらに、その奨学金の継続的原資となっているのは岳陵会員のつながりも含めて寄付される金額(23年度約80万円)となっているが、岳陵会員としての割合や、奨学金を受けた学生が岳陵会員となっているかどうかはわからなかった。これについては、2025年度からは学部からの情報公開、奨学金表彰などの臨席などを行う。これにより、同窓会への参加などをつなげる役割を担いたい。

### キャリア形成のための支援

#### 【2025年度計画】

セミナーなど、現役学生会員を対象とした企画を行う。また、単位取得と関連付けたものが企画できないか、大学と意見交換を行う。